第１回コンパクトなまちづくり大賞　個別事業部門　都市みらい推進機構理事長賞
地区名：釧路中心拠点地区　受賞者：釧路市（北海道）

受賞理由：釧路市では、民間事業者が新規整備したビルのフロアを長期に賃借（３０年間）して内部を図書館として移転整備する手法（ＰＰＰ）を採ることにより、図書館整備にかかる市の財政負担の軽減が可能となりました。新図書館がきっかけとなり、空きビルを改修した新たな飲食店の開業等、地域への波及効果や経済活動の活発化の促進につながっていること、また、民間ビルの再生と連携した公共施設整備のあり方を示す取組であることが評価されました。

１．地区の概要と課題

釧路市の市街地は、商業・業務機能および行政機能が集積し、釧路駅と釧路港を結ぶ交通の要衝として発展するなど、古くから釧路市だけではなく東北海道の拠点の役割を担っている。しかしながら、近年、モータリゼーションの進展と郊外への大規模小売店舗の進出や人口減少などにより、市街地が低密度化し、地域商店街の衰退が見受けられ、空き店舗や未利用地などが増加している。また、市立釧路図書館は老朽化、狭隘化の問題を抱え、利用者ニーズの多様性への対応や交通アクセス上の課題であった。

２．取組概要

交通結節点であり利便性の高い釧路市の都心部を「釧路中心拠点地区」に位置づけ、民間事業者による新ビル建設を契機に、当該ビル内のフロアに図書館を高台から移転整備して、都心部における賑わいの創出のコアとなる施設とし、併せて観光客等の利用が多い既存商業施設内へ地域交流センターを新たに整備することにより、都市機能の集積を図りながら、既存施設との連携によって回遊性を創出し、市民間のみならず交流人口の増加を図り、新たな商業サービス等への波及効果や経済活動の活発化を促進して、賑わいの創出と地域の活性化につなげることに取り組む。

① 計画全体図

計画期間：平成 27～29 年度　**計画事業費**：1264.5(内国費 632.2)百万円
計画面積：215ha(下図の赤囲みのエリア)

３．発現した成果

都心部へ核となる誘導施設として図書館を整備したこと、また、既存の商業施設（フィッシャーマンズワーフＭＯＯ）に地域交流センターを整備したことで共に利便性が高い施設となり、両施設とも市民利用が増加傾向にあるのみならず、近隣町村からも新たな人の流れを喚起することができた。

また、市民団体や民間事業者によるまちづくり活動の拠点として利用されるケースが見受けられるほか、図書館の開館日にあわせた時間帯に営業時間を変更する民間事業者が現れ、子育て世代である市民が新図書館と近隣の公共施設である釧路市こども遊学館を相互利用する等、都心部における市民の回遊性につながる下地ができつつある。

なお、図書館については、以前の耐震強度が不足する建物から、民間事業者が新規建設した耐震基準を満たしたビル内に整備したことにより、利用者の安全性を確保することができたことに加え、延床面積が大幅に増えたことによって狭隘化が解決され、利用者ニーズの多様化へ柔軟に対応できる形となり、津波浸水エリアである都心部において避難ビルの活用を視野に入れた民間ビル内に整備したことで津波対策も強化が図られた。

② 整備した施設における市民団体や民間事業者による事業

図書館と老舗紙店の合同企画（左上：企画展　右上：利用者による紙すき体験）

４．今後の展開

利用者ニーズへ対応した魅力ある施設運営を行い、SNS 等を活用した情報発信強化に取り組むほか、民間事業者等による賑わい創出の活動への支援等によって、市民の更なる回遊性を創出していくとともに、中小企業者等が実施する空き地・空き建物を活用した事業への融資斡旋や、飲食・小売・サービス業事業者の空き店舗出店にかかる経費の一部補助の実施等の財政支援を行う。

また、市民、民間事業者、行政が目指す都心部の将来の姿を共有し、連携して都心部の活性化に取り組むための指針となる「釧路都心部まちづくり計画」を策定し、釧路市におけるまちづくりの推進に取り組む。

地元商店街が実施する賑わい創出事業の拠点として活用される図書館

（上：図書館利用者のキャンドル作り
（右：「第２回　まちなかキャンドルロード」周知ポスター